

令和5年度 特別支援学校寄贈物品 使用状況報告書 【1年目】

P T A名	静岡県立浜松視覚特別支援学校 P T A					
学 校	対 象	<input checked="" type="checkbox"/> 視覚障害	<input type="checkbox"/> 聴覚障害	<input type="checkbox"/> 知的障害	<input type="checkbox"/> 肢体不自由	<input type="checkbox"/> 病弱
	設 置 部	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚部	<input checked="" type="checkbox"/> 小学部	<input checked="" type="checkbox"/> 中学部	<input checked="" type="checkbox"/> 高等部	
	全校児童・生徒数	27人				

1. 使用状況

寄贈物品名	電子ドラムセット
使用学年及び人数	中学部1、2年生(3人)、高等部普通科1年、2年、3年(5人)、音楽部(2人)
使用頻度	中学部: 音楽の授業や文化祭に向けての取組9~10月、休み時間 高等部普通科: 音楽の授業での取組(2時間/週) 音楽部: 放課後(週1~2日)
使用状況	<p>中学部・9月、10月の音楽の授業で、生徒1名が電子ドラムを使用した。10月26日の文化祭では、「中学部バンド」として電子ドラムを叩き披露した。休み時間には、他の生徒も電子ドラムに興味を持ち、2人の生徒が積極的に使用している。</p> <p>高等部普通科・音楽の時間にドラムに精通している職員を特別講師として招きドラムの叩き方の基本や、簡単な曲の演奏方法を指導してもらった。電子ドラムでの活動の最後の時間に演奏会を開催し、生徒達は一人ずつ、自分の選んだ曲を演奏した。</p> <p>音楽部・寄贈される前は、ドラムセットが1台しかなかったため、2人の生徒が順番に使っていたが、寄贈後は、常に叩けるようになり、意欲や技術が向上している。</p>
物品の使用による変化や効果	<p>中学部・上記の使用状況から、ある生徒は、「他の曲も叩いてみたい。」、「家にもドラムセットが欲しい。」といったさらに幅を広げて使っていきたい様子が伺える。</p> <p>高等部普通科・ドラムの演奏は難しそう、ということで、初めは取り組みに消極的な生徒が多かったが、いろいろな音を出すことができるとともに、叩けば音が出る、という容易な操作も相まって、徐々にドラムに興味を示し始めた。次第に休み時間にリズムよくドラムを叩く等、ドラム演奏による音楽を楽しむ生徒が増えてきた。</p> <p>音楽部・リズム打ちの練習だけでなく、曲を電子ドラム内にインポートして、曲を再生させながら叩くようになった。また、ヘッドホンを使用していることで、周りを気にせず練習ができている。</p>
今後の活用の見通しや課題	<p>中学部・電子ドラムを使って、様々なリズムを表現することができている。今後も、音楽の授業や休み時間の中で活用を促していき、生徒らの音楽に関する知識・技能、表現力を養うとともに、余暇活動にも広げていきたい。</p> <p>高等部普通科・いつでも活用できる状態になっている。今後も音楽の授業等で電子ドラムでの音楽演奏を扱うことで、難しいという概念を払拭し、電子ドラムの楽しさを味わわせていきたい。</p> <p>音楽部・今後も、電子ドラムを活用していき、生徒らの活動量を保証するとともに、興味のある曲に合わせて叩けるよう指導していく。生ドラムの音色の良さも味わってほしいため、電子ドラムと生ドラムを併用しながら活動を進めていく。</p>
その他希望や所感など	いつでも幼児児童生徒達が活用できる状態になっている。今後も音楽の授業等で電子ドラムでの音楽演奏を扱うことで、難しいという概念を払拭し、電子ドラムの楽しさを味わわせていきたい。

2. 活用の様子



高等部普通科の生徒が、音楽の授業で、電子ドラムの練習をしている場面。
ばちの扱いやドラムを叩く最適な位置、たたく強さ、ペダルを用いての音の出し方などを
少しずつ理解し、ドラムを使っての演奏の楽しさを感じ始めている。